

出穂後 60 日の「たちすずか」WCS は 泌乳中～後期の乳牛用飼料に 30%まで混合できる

水田を活用した飼料増産の品目として稲 WCS（稲ホールクロップサイレージ）の利活用が進む一方、近年頻発する台風や秋雨のため、これまで適切と言われてきた収穫時期（出穂後 30 日前後）より作業が遅延する事例が増加しています。そこで、三重県畜産研究所は、高糖分高消化性 WCS 用稲「たちすずか」について、そのような場合でも飼料利用が可能か、またその際の適切な給与（混合）量がどの程度であるのかを調査し、出穂後 60 日に収穫調製した場合でも、出穂後 30 日と同様に、飼料乾物中 23%まで混合して給与が可能であり、輸入イネ科牧草の代替として利用できることを明らかにしました（技術の窓 No2366 参照）。今回、23%を上回るレベルでの出穂後 60 日「たちすずか」の給与について検討し、給与水準の違いによる乳生産等について明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 出穂後 60 日に収穫調製した「たちすずか」WCS は（写真 1・2）、熟期が進んでも水分低下が緩慢で、発酵品質は良好です。
2. 出穂後 60 日に収穫調製した「たちすずか」WCS を飼料乾物中それぞれ 25%、30%、35% 混合した TMR をそれぞれ細断型ロールベアラで発酵 TMR に調製して供試し、泌乳中～後期牛 6 頭を用いた飼養試験を実施しました。
3. 出穂後 60 日に収穫調製した「たちすずか」WCS を飼料乾物中 30%混合した給与区は、25% 混合した給与区と乾物摂取量に差がなく、乳量、乳成分、血液性状、ルーメン内容液性状および消化率にも影響を及ぼさないため、泌乳中後期の乳牛用飼料に飼料乾物中 30%まで混合利用できます（図 1）。
4. しかし、飼料乾物中 35%まで混合割合を高めた給与区は、乳成分や消化率等に異常は認められませんが、30%混合給与区に比べて乾物摂取量および乳量は低下する傾向があります。



写真 1 たちすずか出穂後30日



写真 2 たちすずか出穂後60日

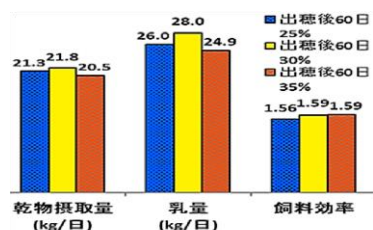


図 1 発酵TMRを用いた泌乳試験成績

☆活用面での留意点

1. 出穂後 60 日収穫「たちすずか」WCS を用いた飼料設計は飼料乾物中 30%までを目安として、乳牛の嗜好性や飼料摂取量を確認して配合量を調製していく必要がある。
2. 詳しくは、三重県畜産研究所大家畜研究課 林 道明（TEL 0598-42-2029）にお問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）